

# バイカモ保全に配慮した排水路整備

株式会社ユニオン ○二村 和弘  
石神 直哉

## 1. はじめに

整備対象となった水路は、岐阜県高山市朝日町内に位置する延長 210mの素掘り排水路である。水路周辺は湿潤な状態であり、水路内を含めヨシやチカヤ、ススキ、ギンギシなどの植物が繁茂し維持管理が困難な状況であった。(写真-1) (写真-2) このような状況下、一部の区間で岐阜県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類の指定となっているバイカモ(梅花藻)が自生しており(写真-3)、中山間地域総合整備事業にて水路機能の保全とバイカモの生態に配慮した水路改修が求められていた。



写真-1 草刈り前 現状水路

写真-2 草刈り後 現状水路

写真-3 バイカモの自生

## 2. バイカモ(梅花藻)とは

バイカモとは、キンポウゲ科に分類される水中に生育する沈水性の多年草である。花は水面から突き出て咲き、白色で径 15mm 前後の 5 枚花弁がある。開花時期は 6 月～8 月頃である。丘陵帯～山地帯の浅くてきれいな流水中に生育している。日本固有種であり、岐阜県内では飛騨地方の高山市(宮村、国府町)、下呂市(馬瀬)、郡上市(八幡町)、本巣市(根尾)、中津川市などに確認の記録がある。水質汚濁、河川改修などにより、生育環境が消失し、絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている。(岐阜県公式ホームページ 環境生活政策課から引用)

## 3. 現地調査と文献調査による設計配慮事項の一覧

現況水路と市内におけるバイカモ生育環境調査(調査日 R4. 7. 27)

現況：水路幅  $W=0.3\sim0.45\text{m}$ 、水深  $0.02\sim0.09\text{m}$ 、流速  $0.123\sim0.50\text{m/s}$ 、水温  $16.0\sim16.5^{\circ}\text{C}$

A 河川：河床幅  $W=7.0\text{m}$ 、水深  $0.31\text{m}$ 、水温： $16.0^{\circ}\text{C}$ 、流速① $0.484\text{m/s}$  流速② $0.856\text{m/s}$

河川増水時：流速  $1.1\text{m/s}$

B 水路：水路幅  $W=1.5\text{m}$ 、水深  $0.15\text{m}$ 、水温： $14.5^{\circ}\text{C}$ 、流速  $0.367\text{m/s}$

C 水路：水路幅  $W=1.0\text{m}$ 、水深  $0.14\text{m}$ 、水温： $15.5^{\circ}\text{C}$ 、流速① $0.328\text{m/s}$  流速② $0.479\text{m/s}$

D 水路：水路幅  $W=0.5\text{m}$ 、水深  $0.10\text{m}$ 、水温： $16.5^{\circ}\text{C}$ 、流速  $0.121\text{m/s}$

河床幅や対象流量など様々な条件下で生育しているため、文献より資料収集した。

項目	文献調査記述	計画地諸元及び設計配慮事項
流速	流速 $0.8\text{m/s}$ 以下であれば生息できる	2年確率雨量時流速を $0.8\text{m/s}$ 以下程度に配慮、周辺調査で最大 $1.1\text{m/s}$ を観測
水深	平均して $30\text{cm}$ 程度を好む	現況水路程度： $6\text{cm}\sim10\text{cm}$ (計画値)

